

結果と考察

初期餌料のマガキ幼生は飼育水1ml当りに換算すると、1,000ℓ水槽で18~58個、500ℓ水槽で30~60個の範囲内で投与された。しかし、受精後の浮上率(20~50%)が低く、カキ幼生の投与密度は実数の半分以下と推定される。カキ幼生の投与はふ化後13日目までであるが、A区は17日目、B区は18日目、C区は15日目まで摂餌が認められ、摂餌量は各区とも大差なく最高はB区、11日目の46個、最低はC区12日目の1個(いずれも平均摂餌量)であった。A区は1日に2回投与したが、他区と比較して、特に摂餌量の変化はみられなかった。

ワムシの摂餌はC、B区でふ化後10日目から確認され、C区ではS型と不明ワムシ(ここでいう不明はS、L型の判別がつかないもの)B区では、ワムシ卵と不明ワムシが摂餌され始めた。前年度(9月下旬飼育)では、ふ化後6日目の平均全長2.43mmからワムシが摂餌されたが、今回飼育では平均全長3.0mmでワムシの摂餌が確認されている。B区はL型ワムシ投餌区であるが、ふ化後12日目からS型ワムシが選択摂餌されL型はふ化後16日目から摂餌が確認できた。同様にA区は16日目から、C区は18日目からL型ワムシの摂餌が確認できた。

表5 小型水槽における飼育結果

区 分	日令15日まで		最終取り揚げ			
	取り揚げ尾数	歩留り	尾数	日令	全長	通算歩留
		尾 %	尾		mm	%
A	1,000ℓ-No.1	7,300 16.22	465	39	9.1	1.0
	1,000ℓ-No.2	3,600 8.78	50	25	-	-
	1,000ℓ-No.3	14日目で中止 0	0	-	-	-
B	500ℓ-No.1	4,000 8.69	飼育途中で中止 (尾数激減の為)			
	500ℓ-No.2	2,200 3.85				
	500ℓ-No.3	6,700 12.18				
C	500ℓ-No.1	4,800 9.05	476	39	9.1	0.8
	500ℓ-No.2	3,800 19.00	462	39	9.1	2.3
	500ℓ-No.3	4,400 8.97	250	28	8.0	0.5

日令15までの歩留りをみてみると、A区は照度の高い水槽(窓測)から歩留りが良くNo.1が16%、No.2が8%、No.3は最も照度が低く14日目で尾数激減の為、飼育を中止した。B区は3~12%の範囲、C区は3区の中では最も良く8~19%の範囲であった。以上のことから照度については明るい程良い結果となっているが、室内飼育における照度は最低でも2,000ルクス以上は必要だと思われる。

ハマフエフキは大小差が激しく、日令25~30頃には友喰いによる斃死が生じて歩留り低下の要因となった。日令39には沖出ししたが、全長約9mmで約1,800匹の生産尾数であった。4月頃の飼育では全長3mm(日令10~13)まではカキ幼生の投与は必要で、カキ幼生の浮上